

による作業の省力化はもとより、肥料の利用効率向上や、窒素単価の安い尿素の利用によるコスト削減、追肥時に生育診断を行うことで稲の生育を調節できることなどのメリットが得られている。

(3) 直播栽培による省力・低コスト化

県内の直播栽培面積は増加傾向となっており、なかでも、平成28年の鉄コーティング直播栽培の面積は約200haまで拡大してきている。また、最近では、ラジコンヘリや動力散布機で散布する、散播栽培も実証的に行われているが、依然として出芽苗立ちの安定が、今後の面積拡大の課題となっている。

(4) イネ縞葉枯病の発生拡大に伴う抵抗性品種の導入

本県では、主食用、飼料用稲用ともに罹病性品種が多く栽培されており、主食用の「コシヒカリ」などが大幅に減収する事例が多数発生している。現在は、苗箱施薬や本田防除などの防除による対応をせざるを得なく、抵抗性品種の導入が望まれる。ただし、抵抗性品種であってもヒメトビウンカの増殖源となることは懸念

されており、注意を呼びかけている。

(5) 中山間地における飼料用米の収量確保

本県の中山間部では、主食用米の収量レベルが400kg/10a程度の地域も多くあり、飼料米の導入によっても必ずしも高収益とはならない事例が報告されている。今後は普及センター等による実態調査、実証栽培、経営評価を行って、収量制限要因や、多収化の方策を明らかにする必要がある。

(6) いもち病に強いとされていた品種におけるいもち病の発生拡大

近年、いもち病に強いとされている多収品種がいもち病に罹病する事例が、各地で報告されている。平成28年に、普及センターによって葉いもち病・穂いもち病の発生が確認された品種は「夢あおば」、「モグモグあおば」、「ホシアオバ」、「モミロマン」、「北陸193号」、「ミズホチカラ」、「タカナリ」、「オオナリ」、「たちすずか」となっている。これらの品種については、今後の発生拡大に注意が必要である。

植調・雑草大鑑

日本植物調節剤研究協会では創立 50 周年事業の一環として「植調雑草図鑑」を発行しました。「植調雑草図鑑」は各雑草の種子、芽生えから成植物、花・果実までを明らかにした、雑草の調査・研究や防除に係る専門家に役立つ本格的な図鑑です。水田雑草 28 科 129 種、畑地雑草 54 科 583 種、合計 712 種を掲載してある、本格的なカラー雑草図鑑です。巻末に和名索引、学名索引、英名索引が付いています。

出版年月:2015 年 2 月

ISBN-10:4881371827

出版社:全国農村教育協会

ISBN-13:9784881371824

著者:浅井元朗

構成:日本植物調節剤研究協会 価格:¥10,584(本体¥9,800)

